

のうね Noun+ PLUS

のうね 人と地域をつなぐ情報誌 夏号

まちづくり通信 MAIL BOX 放課後子ども教室 in のうねの郷コミュニティセンター

おりぼんバッチづくり

7月27日(木) 講師：コミセン職員 参加者4名
地元チロルリボン工場のリボンを使って、缶バッチづくりにチャレンジしました。参加した子どもたちは、たくさんのリボンの中から好きな柄や模様を選び、それを組み合わせて、自分だけのオリジナル缶バッチを作りました。



おもしろサイエンスラボ

8月1日(火) 講師：丸岡高校生 参加者14名
丸岡高校地域協働部の生徒のみなさんを“先生”に招き、科学のおもしろさや不思議さを学びました。科学実験では自由研究に役立つ実験もあり、子どもたちからは驚きとワクワクで歓声があがりました。スライムづくりではぷよぷよしたものや泡の多いスライムを友達同士で見せ合い、楽しんでいました。



これからの予定

- ☆ 10月8日(日)
丸岡古城まつり
長畝地区からくり人形山車巡行
- ☆ 11月中旬～下旬
区長会防災研修、納会
- ☆ 12月上旬～1月下旬
イルミネーション点灯(味岡山、霞の郷)

編集後記

連日の猛暑続きで、農作物も身も干からびそうです。この夏号が発行される頃には少しは潤う程度のお湿りが欲しいものです。半世紀ほど前には父が「今日は28℃もあるから、釜ヶ淵に行こう」と泳ぎに行ったことも懐かしいです。今28℃なら、「今日はすごく涼しいね」となりますね。節電にも限界があります。夏の熱気を冬に、冬の冷気を夏に回すということを誰か考えてくれないかなあ。せめてその頃の地球環境に戻ってほしいものです。

(ワイワイ婦人)



とき 令和5年9月24日(日)10:00開催
ところ 霞の郷 エントランス広場 ほか

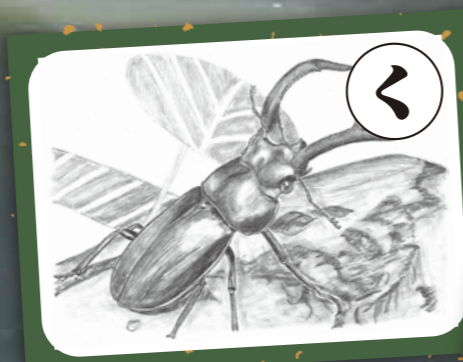


※9月中旬に全戸配布されるチラシをご覧ください。

のうねの郷まつり

CONTENTS

- ✓ 特集一のうねキッズカルタ完成間近! …P2~3
- ✓ トピックス…P4~5
- ✓ 歴史の場所を歩く…P6



クワガタの集まる自然 釜ヶ淵

《のうねキッズカルタ》
平成から令和…話し合いを重ね
いよいよカルタがお目見えます



夕方
日向に
神楽
鳴り響く



深呼吸
緑が
いっぱい
金毘羅山

● 魅力あふれる「キッズカルタ」の今後

キッズカルタの魅力は楽しみながら長畝地区を知ることです。カルタ遊びを繰り返していくうちに自然と自分たちが住む長畝地区を知り、歴史に触れることができます。知っていくことで愛着心が生まれ自慢しなくなります。

今後は、読み札に書かれた場所をもとに「のうねお宝マップ」の作成、そのマップを見ながら散策する「のうねお宝さがし」を実施する予定です。「のうねキッズカルタ」で詠まれている史跡や名所をめくり長畝の歴史を身近に感じ、長畝地区の魅力を次世代へ伝えていくものになればいいと思います。

のうねの郷まつりで 完成披露式

9月24日(日)に開催される「2023 のうねの郷まつり」にて、カルタの朗読と詠み手作者の登壇を予定しています。朗読を聞くとその場所の情景が思い浮かびそうですね。

● はじまり

のうねの郷づくり推進協議会では、子どもたちが自分の住んでいる長畝地区に親しみを持ち愛着を深めてもらおうと、長畝小学校の児童に“自分たちが見たのうねのいいところ”を「5・7・5」の歌にしてもらい、毎年募集を始めました。長畝地区の歴史や伝統芸能、豊かな自然など“のうねのいいところ探し”を毎年募集していくうちに、50音がそろそろほどの作品が集まりました。そこで、遊びながら楽しく学べるカルタを考案、「のうねキッズカルタ」の作成に着手しました。



▲ 毎年開催してきた「のうねキッズカルタ」コンテスト表彰式の様子

● ひとつひとつ描かれた取り札

長畝小学校児童からの歌(読み句)が集まってくるのと同時に絵札の作成に入ろうと、そのタイミングで長畝小学校教頭だった長畝地区在住の竹原誠氏に依頼しました。竹原氏は小学校在籍中、児童たちに似顔絵などを描いていたそうで、カルタの読み札に合った風景や人物を鉛筆のみでモノクロ写真のように数年かけて描いていただきました。



▲ 竹原氏がひとつひとつ描いた鉛筆画

竹田川で元気に育つてね!

長畝小学校4年生稚アユの放流

あいにくの雨の中、5月19日(金)に、長畝小学校4年生が竹田川で稚アユの放流を行いました。その後「ちくちくぼんぼん」に移動し、竹田川漁業協同組合の方から竹田川や稚鮎について学びました。

4年生は、総合的な学習の時間に、「自然豊かな町に」をテーマに学習を進めています。自分たちの地区に流れている竹田川が、アユが住める「清流」であり、自分たちの地域に、こんなにきれいな川があることを改めて知りました。また、アユを見たことのない児童や魚に触ったことのない児童も多く、稚アユを見て、「こんなにちっちゃい!」、「つるつるしている!」と感動の声が上がりました。児童にとっては、実体験でしかできない貴重な学習の機会となりました。

今回の稚アユ放流は、のうねの郷づくり推進協議会と竹田川漁業協同組合より補助をいただき実現しました。その他各団体の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
(長畝小学校校長 奥村 弘美)



仲間と一緒に楽しく運動

第23回のうね健康まつり「いこっさ あおっさ やろっさ 2023」

5月28日(日)、第23回のうね健康まつりが長畝小学校グラウンド及び体育館にて開催されました。今回の競技種目である「モルック」・「ペタンク」・「ディスクゴルフ」は、初めて取り入れた種目で、体協メンバー自体どのように競技運営していけるか不安材料がたくさんありましたが、事前に各区長、体育委員に競技説明会の中でデモンストレーションを行いながら互いにルール等確認しながら進めていきました。

参加者らは、初めてプレーする方ばかりで最初は戸惑いながらのプレーでしたが、スポーツ推進委員のサポートを得ながら、競技参加者同士が和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。

開催にあたりご協力いただきました各区長、体育委員及び関係団体の皆様、また参加いただきました選手の皆様に慎んでお礼申し上げます。

(ふれあい部会 坂本 進)



要望書を市と県に提出

長畝地区区長会

長畝地区民から区長を通じて提出された要望案件を取りまとめた要望書を6月12日(月)、坂井市役所及び福井県三国土木事務所に提出しました。要望書の提出の際、井上区長会副会長から要望の必要性等の詳細な説明があり、更には同席していただいた地元選出の県会議員、市会議員からの助言等をいただきました。

住民要望である道路整備や河川環境整備等の案件の中には、早急な対応が執られる案件もあり成果を得た次第です。
(長畝地区区長会)



みんなで守ろう!子どもの登下校

長畝小学校児童の見守り活動

「のうねっ子見守り隊」の研修会を6月22日(木)、のうねの郷コミュニティセンターで開催しました。まず、長畝小学校の奥村校長から見守り隊員に対し、日頃の慰労と感謝の気持ちが伝えられました。次に、坂井警察署霞交番所酒井所長から声掛け事案や特殊詐欺事案等の被害防止要領の講義がありました。最後に、交通課乙部交通巡查員から横断歩道における交通安全指導要領の実践を交えた講習がありました。

見守り隊員たちは認識を新たにし、今後の見守り活動に役立つよう真剣に研修を受けていました。

(あんしん・ふくし部会 村中 祐人)



朝活で暑い夏を乗り切ろう!

長畝地区ラジオ体操の会

第15回「ラジオ体操の会」が7月15日(土)、長畝小学校グラウンドで開催されました。前夜の雨で開催が心配されましたが、そんな心配も吹き飛ばす晴れ晴れの気持ちの良い朝となり、多くの参加をいただきました。

中田成裕氏の指導のもと、リズミカルなウォーミングアップから始まり、続いてラジオ体操と清々しい気持ちの良い汗を流しました。

ラジオ体操の後には、夏休み中の交通安全に対する注意点を唱え、会を終えました。

(ふれあい部会 坂本 進)



Do you know.NE? の～ね!

企業の星 VOL.3

ふるさと往診クリニック
丸岡町長畝59-22
令和5年4月開業
診療科目: 一般外科/消化器外科/消化器内科



▲ 上長畝に開業した「ふるさと往診クリニック」

「最期の日を我が家で迎えたい、家族みんなと一緒にいたい」という患者の思いや、最期までそばで寄り添ってあげたいという家族の思い。そんな患者と家族の思いを支える医療、その一つに「在宅医療」がある。ふるさと往診クリニックは、令和5年4月、坂井地区で初めての「在宅医療」を主にした診療所として、上長畝に開設した。

在宅医療を行うのは、上長畝に住む院長の遠藤直樹さん。大学卒業後、約16年間、北陸三県の病院で外科医として研鑽を積み、患者一人ひとりに向き合ってきたドクターで、4年前にふるさと福井に戻ってきた。これを契機に、ふるさとに対して何か役立つことをしたいと思うようになったという遠藤さん。病院勤務のときから考えていた、「自宅での

緩和ケアを含む療養を希望する人の応援がしたい」という思いが膨らみ、開業医では稀な在宅医療を主に行う医師としての開業を選んだ。

「人生最期の時間を、本人が自宅だけでなく病院外でやりたいことのサポートをする、できる限り患者さんのニーズに応えたい」と話す遠藤さん。日々、夜中や明け方の時間帯も関係なく、遠くは隣の市まで駆けつけ、不安な患者や家族に応える医療を行っている。

誰にでも笑顔で元気よく話しかける遠藤さんから感じる優しさは、地域に根差した高い医療技術を持つ医師という以上に、最期の時間を安心して預けられる気持ちにさせてくれる。そんな地域にとってこれほど心強い医師がいて下さるのは、大変ありがたく嬉しいことである。



▲ 自宅すぐそばにあるクリニックの部屋。往診の際に活躍するレントゲンなど。

みんながカメラマン
投稿!
スクープ写真

連日の猛暑、どこかへ出かけたいな～と思いつつも出かけられない…と思ったら、あらま! こんなところにミッキーが!

投稿者 もこもこちゃん



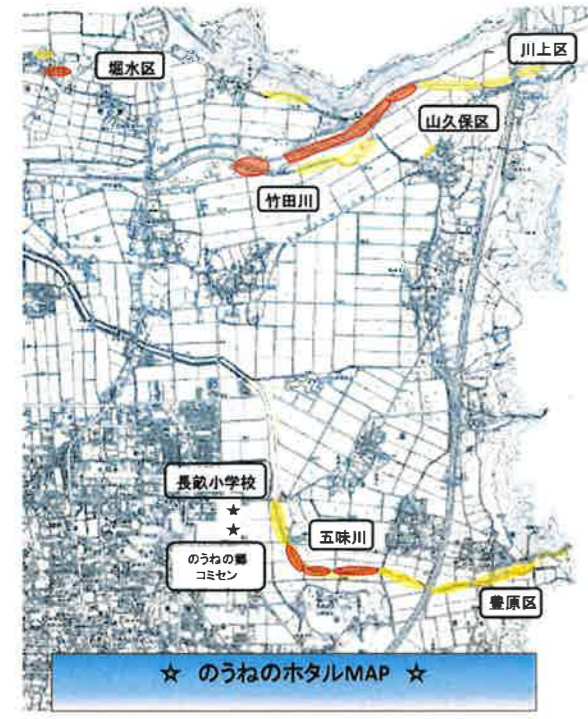
お蕎麦河戸祭礼の時に…あれ?なんだ? 木の幹に動物発見! なんだと思いますか? 亀に見えませんか~ (^ ^)

投稿者 夏の(昔は)お嬢さん

歴史の場所に行く③2 ホタルの里「のうね」

今回はテーマの「のうね歴史の場所」からちょっと外れますが、いまや歴史上の生き物になってしまった「ホタル」がのうねの各地にまだわずかながら生息しているという話題について考えてみたいと思います。

六月から七月にかけてはホタルの出るシーズンです。成虫になったオスとメスのホタルが交尾する相手を求めて飛び交うのです。わずか1週間の命なのです。昔はホタルはどんなところにも出ていました。年取った人たちは誰でも、夕涼みに出てホタル狩りをした思い出があると思います。ところが近年はホタルを見かけることがめっきり少なくなりました。いまや幻



の生き物になってしまいました。ですが私たちの住む「のうね」には、その貴重なホタルが出る場所がいくつもあります。それだけ「のうね」はまだ豊かな自然が残されて

長畝地区でホタルが出る場所を紹介します。①味岡山から与河を経て田屋の豊原資料館に至る井勝川 ②川上区(竹田川の椿ヶ淵、川上橋) ③同じく竹田

川(ミルコンコンクリート工場東方の川の中) ④山久保(久保田酒造の裏の用水路) ⑤坪江(平岩からの五領用水路) ⑥堀水(八坂神社裏と集落北側の用水路) ⑦内田から篠岡までの新江用水路などです。(ただし、新江用水がパイプライン化した後はホタルは出ていません。)

息できなくなりました。また、幼虫が地上で這い上がることもコンクリートでは不可能になります。またせつかく地上に上がっても雑草防除のため除草剤が散布されて生きることができません。こうしてホタルが地上から消えつつあるのです。とてもデリケートな生物でそうした自然環境が整っていることが必要なのですが、近くの道路の街灯や自動車のヘッドライトや騒音なども嫌います。だからホタルが出るという事は昔ながらの自然が残されている場所だということなのです。

(文責 水崎亮博)



ところが近年農地の整備が進み、用水路がコンクリート張になってカワニナが生